

The Open Group CHICAGO Conference ハイライト 第三日目

* 開催日時:2008年7月21日(月)~7月23日(水)

* 開催場所:InterContinental Chicago

* OPEN GROUP Conference in CHICAGO

<http://www.opengroup.org/events/q308/>

<第三日目>

Allen Brown 氏のオープニングの挨拶の後、Dan Blum 氏、Senior VP、Principal Analyst、Security and Risk Management Strategies, Burton Group の講演で、第3日目の”Architecting Secure Information Delivery”というテーマのプレナリ・セッションがキックオフされた。

Blum 氏は、“Security Architecture for Future”というテーマで基調講演を行った。

組織が次第にバーチャル且つモバイル化されるにつれて、サイバー攻撃の標的が増え、従来のネットワーク・コントロールが弱くなってきている。結果として、組織はコントロールをアクセス・ポイントやセキュリティ・ゲートウェイ、データ・センター、サーバ、クライアントの末端まで伸ばそうとしている。所謂セキュリティ・ゾーンは、物理的でなく、より論理的になってきたので、セキュリティ・ゾーンは、安全なエンドポイントやプロトコールにより形成されたネットワーク上のセキュリティ・オーバーレイを通じて維持される必要がある—即ち、すべては、ダイナミックなポリシー・インフラを通じてコントロールされる。氏は、組織は、もっと情報自身を直接コントロールする必要があり、もっときめ細かいコントロールをユーザ・アイデンティティ・マネージメントやデータベース、アプリケーションに作り上げる必要がある。

次に、Adrian Seccombe 氏、CISO and Senior Enterprise Architect, Eli Lilly & Company Ltd. が”Architecture for Business Collaboration”というテーマで講演した。

氏は、冒頭セキュリティの脅威について展望した後、The Open Group の一つの Managed Consortiaである The Jericho Forum の背景について触れた。設立以来4年間、Jericho Forum は情報セキュリティの新しいアプローチの必要性を推進してきた。そのアプローチ手法は、”de-perimeterization” (囲いを取り払うという意味)と呼ばれている。氏は、Jericho Forum の創始者および熱心なサポーターの一人であり、Eli Lilly 社内で実践されているこの手法のプリンシプルについて説明された。

次に、Rushby 氏、Director for Formal Methods and Dependable Systems, SRI International が”MILS and the Central Role of Policy Architecture in High Assurance Security”という

テーマで講演した。氏は、ここ数年間にわたり、軍の組み込みシステムに採用されている MILS というセキュリティ・アーキテクチャを紹介した。

氏は、MILS はエンタープライズのコマーシャルのシステムにも対応することができ、確信のあるアーキテクチャを確立できると話した。

プレナリ・セッションの最後の基調講演者は、Dr. Alenka Brown 氏、DoD Chief Information Officer で、“Human Interoperability and Net-Centric Environments”というテーマで話した。氏は、SOA への方向へどんどんシフトして行くことは、必然的にヒューマン・インターオペラビリティ関係への挑戦をもたらし、人間とコンピュータ・コミュニケーション、サイバー・インフラ・システムとの間のセキュリティが課題となる。そこで氏は、DoD のネットセントリック環境のもとで情報共有をもたらしたヒューマン・インターオペラビリティ・ポリシー・フレームワークの詳細を話した。

午後の“Architecting Secure Information Delivery”のトラックをキックオフしたのは、Stuart Boardman 氏、Director of Consulting, CGI で、“Identify and the Enterprise”というテーマで講演した。氏は、eGovernment や eCommerce、Web 2.0 の世界でダイナミックに変化する Identity および Extended Enterprise と呼ぶ世界でも、氏によれば、identity はアクセス・コントロールの要素を越えて、ユーザ・エネイブメントやカスタムの維持、評判、プライバシー、信頼といったビジネス関心事まで発展している。

氏はさらに、identity のこれらの観点を詳しく述べ、エンタープライズ・アーキテクチャのすべて局面に入れようとしたかを説明した。

次に、Dr. Chenxi Wang 氏、Principal Analyst, Forrester Research が“What You Need to Know about Web and Enterprise 2.0 Security”というテーマで講演した。女史は、エンタープライズ内で Web 2.0 アプリケーションへのエントリーの主な防壁は、セキュリティであると、説明した。女史の講演では、Web 2.0 の世界では、これらの企業アプリケーションを適用する際の最大のセキュリティ関心事は、エンドポイント・コントロールやコンテンツ・ガバナンス、アイデンティ・マネージメント、アプリケーション・セキュリティであり、セキュリティ・リスクという意味におけるエンタープライズ 2.0 のベストプラクティスを提案した。

“Enterprise Architecture Development”トラックの後半では、Jerry Casarella 氏、Chief Architect, PSEG が“Toolkit for Enterprise Architecture”というテーマで講演した。氏は、エンタープライズ・アーキテクト達は、EA ビジョンを現実なものに変えるためにツールを必要としている、という。氏は、実際に使用されている名前の知れたいくつかのツール、ビジネスと IT の整合性とガバナンスのような関連するものを調べた。

氏は、参加者達に、アーキテクチャの成果物を作り、プロセスを共有するためのテンプレートを紹介し、アプリケーション・ライフサイクル・プランニングに使用して行くための参考として提示し

た。

また、“EA Development”トラックでは、E.G. Nadhan氏、Lead Technologist、Global Strategic Capability Management、EDSが”Enterprise 3.0 Architecture for the 21st Century Enterprise”というテーマで講演した。

“Architecture Secure Information Delivery”トラックの最後は、Mike Jerbic 氏、Principal Consultant、Trusted Systems Consulting Group and Chairman of The Open Group’s Security Forum が”The Economics of Information, Security, and Information Security”というテーマの講演で締めくくった。このセッションの目標は、ビジネスがその情報を安全に確保することの従来の常識にチャレンジすることであった。氏は、情報のユニークな経済性や一般的なセキュリティの経済性を強調し、夫々の情報セキュリティの意味するところを説明した。

特に、市場の目に見えない所でサイバー・スペースにおける情報セキュリティが如何に影響を受けているか、乱暴に置かれているデータの安全を確保するための隠れたコストがあることに警告を発した。氏は、製品がどのくらいの利益を稼ぎ、どのくらいのコストがかかっているかをビジネスについて考えと共に、情報セキュリティの分野で進行中の開発や業界標準の仕様について真剣に考える必要があるとの主張した。

以上